

地域が目指す「新たな森林・林業基本計画」の実現

- 1 今後、想定される木質バイオマスの需要拡大及び林業の低コスト化に向け、現状での切り捨て間伐箇所及び林地に散在した枝条等の集積・搬出が重要。
- 2 道が実施した各事業対等への状況把握によれば、職員の高齢化と若い労働者の林業離れによって、現場技能者不足の状況があるため担い手対策が重要。

木質バイオマス

製品バイオマス生産事業材及び供給、林業の連携による

現場の技能者及び育成若い保



林地未利用材

検討会の様子

【課題】

現在の作業システムでは、バイオマス資材の利用が考慮されていない。

平成28年度の取組

全木集材（全木木寄せ）による枝条、端材等を森林作業道に集積、バイオマス資材の利用や地拵え等の省略に向けた現地検討会で、上川総合振興局等とも連携し林業事業体及び研究機関等と意見交換を実施。

検討会では、全木集材、伐採・造林一貫作業システムによる低コスト化、作業効率、コンテナ苗植栽、優良種苗、土砂流出、下刈り省略など、今後の主伐再造林に向けた検証の必要性について提案し説明。

また、2月に開催された「北の国・森林づくり技術交流発表会」において、実際に現地で全木集材の功程調査を実施した結果及び今後の課題を発表した。

【成果】

「チャレンジには敬意を表す」といった意見を頂くなど、普及に向けた取組に対し評価を頂きましたが、「言葉が分かりづらい」など改善を促す意見もあり、今後の改善に繋がった。

林業の低コスト



コンテナ苗植栽

【課題】

造林コストの低減に資するため、伐採・造林の一貫作業システムの実入や、低コスト造林の実施が必要。

素材生産と造林等を兼務できる人材の育成及び効率的な作業システムの普及・定着を目指し素材生産事業体を対象としたコンテナ苗植栽研修会を実施。

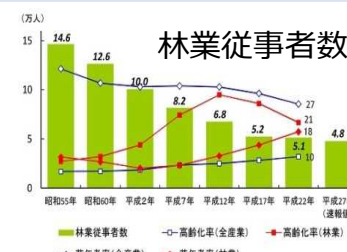
植栽体験では改良された器具機械を使用し、器具使用の感想や改良点等をアンケートで提出してもらった。

【成果】

「初めて使ったが、大変良かった」「柄が短い」など更に改良に繋がる回答があり、器具機械の所有者である研究機関へ送付。

研究機関より「今後の改良の参考になる」とのお話しを頂き、改良に向けた連携ができた。

担い手対策



【課題】

林業従事者数が年々減少しているため、新規就労者対策が必要。

地元農業高校からの、地元林業事業体等への新規採用者が減少していることから、林業事業体等にインターンシップの実施、「山の仕事説明会」への参加要請を実施。

【成果】

積極的に参加する事業体が増え、学校からは「就職選択肢の幅が広がった」など成果として現れた。

振興局主催の「旭川周辺地域担い手確保推進協議会」とも、参加事業体の要請により連携ができた。

【今後の取組】

実証の継続

研究機関等との連携

旭川農業高校以外にも取組の拡大

地域の課題に解決に向け必要な新しい何かを取り入れて取組を推進